

あなたは災害に備えて何をするべきか、 知っていますか？

● はじめに

平成7年には阪神・淡路大震災、平成23年には東日本大震災が発生し、甚大な被害をもたらしました。また北海道でも、平成30年9月6日、過去最大となる最大震度7を記録した胆振東部地震が発生し、多くの方の尊い命が失われました。千歳市でも最大震度6弱の揺れを観測し、幸いにも建物の倒壊や人命にかかわるような大きな被害はありませんでしたが、地震に伴う北海道全域の停電（ブラックアウト）により、市民生活に大きな影響を及ぼすなど、地震の恐ろしさを痛感させられるとともに、自助・共助の重要性（地域での助け合い）など多くの教訓を残しました。

私たちのまわりでは、地震だけでなく、台風・豪雨など、毎年さまざまな災害が発生し、尊い人命や財産が失われています。

市では、これらの教訓をもとに、市民のみなさんが安心して生活できる災害に強いまちづくり・ひとづくりを目指していますが、いつ、どこで起きるか予想が困難な災害から生き残るためには、「市民のみなさん、一人ひとりの備えと対応」が最も重要となります。

この「防災ハンドブック」は、災害に備えておくことや災害が起きたときの対処方法などをまとめたものです。

日ごろから手の届くところに置いていただき、災害に備える「防災」と、災害時の被害を少しでも減らす「減災」のために活用してください。

● 石狩低地東縁断層帯

千歳市の東側には、直下型地震の原因となる活断層帯が存在しています。

この活断層帯は、石狩低地東縁断層帯といわれ、美唄市から安平町に至る主部と、千歳市から日高町沖合の海域に至る南部に分かれています。

石狩低地東縁断層帯南部が原因で地震が発生した場合、千歳市では最大震度6強の強い揺れが予測されています。また、主部と南部が連動して地震が起こる可能性も指摘されており、その場合は最大震度7となる可能性もあります。

▶ 石狩低地東縁断層帯南部の地震による予測震度分布

